



会議の概要（発言の要旨）

発言者	議題・発言・結果等
岩崎部長	<p>1 開会 2 座長あいさつ 3 議事 1) 2031年の先の佐渡市への提言</p> <p>本日は本市のデジタル活用に際し、構想・計画の策定など様々なご助言をいただいているデジタル化推進検討懇談会の皆様から、佐渡市に対するご提言をいただく。</p> <p>デジタル化推進検討懇談会は、令和4年度に設置され、以降、構想・計画の策定から進捗管理のサポートまでを担っていただき、この場をお借りし感謝申し上げます。</p> <p>本年度末をもって懇談会は終了となるが、「佐渡市総合計画」の終期である2031年度を見据え、提言の1つ目として、そのさらに先の未来へのメッセージを。提言の2つ目として、2031年度までに期待する施策について、本日はただけと思っている。</p>
椎室長 座長	<p>それではよろしく願います。</p> <p>座長から一言願います。</p> <p>4年間、委員の皆様におかれてはたいへんお疲れ様であった。</p>
椎室長	<p>バランスのよいメンバーの方に集っていただき、佐渡市のICTを牽引してきたA委員を副座長に、そして新潟県知事政策局のアドバイザーを務めるB委員には県の情報をいただき、また、大手民間企業、市内民間企業の方、そして市民の方まで、情報系のお仕事をされている方からLINEは使えてもそれ以上は分からないという方も含め、本当に色々な立場の方が参加した懇談会であった。</p> <p>そういった多様なバックグラウンドを持つ皆様がいたからこそ、バランスの取れた議論ができたと思っている。</p> <p>デジタル活用構想・計画を検討するところから始まったわけであるが、総合計画に基づいて様々な政策課題という中で、デジタル活用をどのように進めていくのかという議論から始めが、その過程で、行政手続や庁内事務の効率化はこの4年で進んだものと思う。</p> <p>印象的だったのは、市役所の職員がノーコード・ローコードツールを活用し、自分たちで管理しやすいようにシステムを構築して、それを運用しているというような場面を見ることができ、若い職員を中心に、デジタルというものが業者さんをお願いするというだけでなく、自分たちでも色々作ることができるようになってきていると感じた。</p> <p>今日の提言内容は、デジタル活用による価値創造において、どのようなことができるといいのかという話が中心になる。</p> <p>恐らく、それを練り上げて実装していくのはこれからの取り組みになるし、それから、今まで形にしてきた計画を、急速に進歩するデジタル世界の中でどのようにPDCAサイクルを回していくのかについては課題であり、開かれた議論の場や色々な人が参画できる懇談会みたいなものの実現を目指してきたが、そこまでは至らなかった。</p> <p>ただ、第1期、第2期と続いてきた懇談会の集大成という形で本日は報告をさせていただき、今後の佐渡市のデジタル政策の活性化に繋げていただければと思う。</p> <p>本日はよろしく願います。</p> <p>それではここから具体的な提言に移りたい。</p> <p>1点目は「2031年より先の未来へのメッセージ」である。</p>

B委員

未来のメッセージということで、懇談会の中では2031年までの佐渡市のデジタル改革を見据えてきたが、基本的に国の方もデジタル行財政改革会議など様々な会議で毎年度デジタル政策に関しては何らかの新しい取り組みも含めて色々推進している。

これは恐らく、佐渡市にも総合計画など色々な計画があるが、デジタル政策に関して毎年度見直すことについては、この懇談会の有無に関わらずやらなければならないことが大前提と考えている。

その中で、現在進行中のものやある程度出来上がったものなど色々な仕組みや行政サービスがあるが、もう少し先を見据え、2031年より先の2040年、2050年、今の子どもたちが大人になる頃の未来とは何だろうというのを、この懇談会の1つのメッセージとして残しておきたいと思い、今回の未来へのメッセージという形にさせていただいた。

この中で何をメッセージとして残すのかということで、人口減少や高齢化社会など色々な課題は多数あるが、佐渡市の土壌である自然を考え、ネイチャーポジティブという表現にしている。

これは、自然が自然としてその循環をする昔からの取り組みというか、自然が自然に循環されているというものをもう一度、この佐渡市の中でも大切にしていきたいと思っている。

サーキュラーエコノミーのような形で循環させるために色々な経済活動はもちろんあるが、そもそも、やはり自然は自然として循環するものであり、「自然が勝手に循環する」と言うとおかしいかも知れないが、自然の中で循環されていくという島をもう一度考え直していくということである。

脱炭素や地球温暖化みたいな課題はたくさんあると思うが、この自然に対するその問題は、恐らく一長一短ではなかなか解決できないので、今のうちにそういうメッセージを出して、今の子どもたちも含めて佐渡市の中でうまく繋げていきたいというふうはこのメッセージを表している。

P.5はそのための3つの柱である。

1つ目のネイチャーポジティブは今話したような形であるが、これを市民と一緒にになって精神的な繋がりのような形で書かせていただいているが、行政が市民と一緒に佐渡市を作っていくような繋がりを見出していくというのが2番目になる。

一方で、デジタル的な世界が進む中でどういう世界がこれから出てくるのかということで、3番目にAIと共存・共生・共同する社会ということもこれから忘れてはいけないことだと思っている。

どうしても高齢化社会、人口減少社会が進む中で、ロボットも含めてAI・人工知能を活用する場面が今後ますます増えてくると思う。

[AGI](#)や[ASI](#)のような形でどんどん社会の一部にAIが含まれて、これと一緒に人間の生活が維持されていくというような状況もあると思うので、共存・共生するような佐渡島ということも未来のメッセージの中には残しておきたいと思い、3番目に書かせていただいた。

次に、2つ目の提言として「2031年までの施策の実行として期待すること」である。

P.7には3つ書かせていただいているが、私の方からは「(1)二地域居住の促進や人材確保を含めた交流人口拡大のためのデジタル活用」についてお話をさせていただく。

総務省の方で今、「ふるさと住民登録制度」をスタートしようとしている。

昨年、BSNアイネットさんのカンファレンスで総務省の室長と一緒にしてお話をいただいた時からの繋がりでも色々な情報をいただいているが、国の方では登録のアプリケーションを用意し、登録後は市町村にそのデータを渡すので、市町村の方でリテンションなり繋がりなりをしっかり持って欲しいというような、丸投げではないが、そのようなやり方になる。

それでも、佐渡に興味を持っている方とそういう形で繋いでくれる訳なので、登録してくれた人たちとうまく繋がりを作りたいというところで、今回はその交流人口の促進を進めていけるような形として、県内であれば山古志地区でもやっている「[DAO](#)」のような仕組みを構築してはいかかがと。

副座長

ふるさと住民登録制度のような形で何人が登録するか分からないが、佐渡市には「さどまる倶楽部」といった何万人ものファンもいる。

その中でも情報を提供したり、佐渡に興味を持ってもらって来ていただいたり、できれば移住していただいたり、それが二地域居住のような色々な形があると思うが、そういう人たち同士が活発に話し合えるようなプラットフォームとしてDAOのようなものを活用してみたらどうかということである。

何万人もいる中で、意見を言うのは恐らくごく少数だと思う。そのごく少数からスタートして、そこを活性化していくような、そういうようなコミュニティを作ることができればと思っている。

山古志地区でも登録者は1,000人いるが、これが2,000人とか3,000人とかにはならないようである。

ただ、外国の人たちが非常に多く、外国の方たちも山古志地区へ行ってみたいというような繋がりがどんどんできたようなので、色々なところのやり方を見つつ、このDAOを佐渡市流にうまくコミュニティとして発展できればと思っている。

[「佐渡市特定居住促進計画」](#)の中にも、ふるさと住民登録制度はきちんと記載されているので、これをうまく具体的な自己プランに落とし込んだ形で活性化し促進できればと思っている。

私からは以上である。

それでは2つ目以降について私の方から説明させていただく。

「(2)一次産業のDX推進に向けた支援窓口の仕組み化」について、これは地元から当社に対する色々なオーダーがある中で出てきたアイデアの1つになる。

例えば、市内の事業者さんから「DX化したい」とお聞きするが、当社で見積もりを作ると数百万円から1,000万かかるという話になり、そうするとなかなか市内の事業者が資金的にクリアできないことがある。

一方で、AIの進展によって小さなDX化に関しては、エンジニアが主導すれば結構コストを抑えてできる世の中にもなっている。

ただ、市内の1次産業の事業者さんたちが自分たちで勉強してそれを使いこなせるかというと、なかなかそれも難しいという微妙な位置にいて、将来的にはAGIが全部やってくれるようになるかもしれないが、それまでの間のDX化の歩みを止める訳にもいかない。

そこに「NPO法人Sadocon(佐渡魂)(仮称)」と書いてあるが、これは上越市の[NPO法人ORAJA](#)さんをイメージしていて、例えばNTTさん、あるいは大手さん、あるいは私たちがみたいな地元のIT企業、あるいは企業誘致で来てくれたIT企業さんたちがメンバーとして参画する。

その中で横断的にチームを作り、地元の事業者さんからの小さなDXの要望をリスト化して、そのチームが無料で解決するというものである。

もちろん小さなDX化しかできないが、そうすると今度は佐渡市さんからそれぞれ色々なプロポーザルが出ているが、そういったIT系のプロポーザルの時に、このSadoconが手挙げた時に加点するという仕組みである。

加点するだけでそこに発注を決定するという訳ではない。

事業としてしっかり佐渡に根付いて、色々な事業者のお悩みをDXでしっかり解決したところに加点すると。

DX化については、1社1社がやってもあまり効果がないというか、当然、得意不得意もあるし、持っているテクノロジーも違うので、そこはチームを組んでやろうというのがこのSadoconというものになる。

最後は、「(3) 総合戦略アドバイザー〈デジタル・DX分野〉はお任せください！」である。

アドバイザーの中で、DX分野が不在である。

渡辺市長

簡単に言うと、何か困った時に電話して解決を聞く人である。

本来は例えば私がやるべきなのかもしれないが、私は別のところにアサインさせていただいているので、B委員のような方に担っていただいて、アドバイザーとしてこういったことの見聞交換をしていただけたらいいのではないかと考えて提言させていただいた。

こういう懇談会も大事だと思うが、即応性には欠ける。

とにかくIT分野に関しては進展が非常に速いので、即応性という点でアドバイザーをつけられたらいいかなと思う。

私たちからの提言は以上である。

ご提言に感謝申し上げます。

私自身が思っているのは、この人口減少社会はもう自然減を考えていくと止まらない。

そういう課題があるのに、もう我が国のやっていることには不満たらたらでる。

「ふるさと住民登録制度」についても不満たらたらで、一体いつまで抜本的なことをせずに自治体の小手先だけに合わせるのかという思いである。

「ふるさと納税制度」も然りである。

どの自治体も予算を使って競争している。

だけど、根っこに東京に富が集まる仕組みは全く変わっていない。

東京に人が集まる仕組みを全く変えようとしなない。

医療ですら医師が不足している。

でも地方に医師は派遣できない。

医師の働く場所の自由という憲法があるので派遣できない。

この1点である。

もういつまでやっているのかと。

学費くらい国が出して、その代わりある程度地方に回るようなことを優先で義務付けるとか、色々な方法があるかもしれないが、そこは本人が選べるようにしていくべきではないかと思う。

そういう抜本的なことを未だに国は何にもしない。

すごく不満である。

ずっと国の言う通りやってきた。

土俵を作られている訳なので首長としてはやらざるを得ない

しかし、この人口減少社会におけるこれからの地方の取り組みの大きな点は、AIと産業だと思っている。

この2つを何とかしないと、基本的に今言ったように人口減少社会は止まらないと思う。

要は子供を産みたいと思えるような、産めるような若者の社会保障制度を作らない限り無理だと思う。

東京が面白くて東京に行ってしまう。

でもやはり根っこの部分である。

東京の夫婦であっても働かなければ飯を食えないのである。

今の日本は、未だにお父さんが働いてお母さんが主婦で、その仕組みを引きずったまま今の子育てをやっている。

その中で働けるようにということで保育園を増やすと言って、学校自体は何もやっていない。

私は本当不満である。

その中で、その不満と人口減少が起きる中では、もう絶対に経済を動かさない。

そこにもものすごい不満があって、例えば東京に本社が集まって、わざわざ丸の内のOLなんてたくさんいるが、ICTを活用すれば機能分散できるはずである。

国もそうである。

京都に文化庁を置いたが、残りは何もせずに東京に全部置いてた。

それで相変わらずガチ混みの電車に乗ってみんなが通っているのである。

だから、あの景色というのはものづくりの国の1つの風景なのかもしれないが、もうそのあたりを変えない限り無理である。

今の人口の自然減を見ていたら、若い女性が東京に行くという世界を止めなければいけない。知事も言っているが、止めるために何をしようかという、手段はほぼ限られる。

お金ではなく、働き甲斐であるとかそういう部分である。

そこをどう作っていくかということである。

もう1つ。

やはりITの一番の問題と、男女共同参画の一番の問題と、東京に女性が行く一番の問題は実は重複していると思っていて、既成概念だと思っている。

年寄りにはAIを使うことができない。

この前議会でも議論がありましたが、囑託員が市報やお知らせの紙配っている。

それをやめるという話をすると、「それをやめたら駄目だ」と。

しかし、紙を配ることができないほど高齢化しているところがたくさんあるのである。

駄目だと議会が騒ぐのは分かる。

しかし、色々なコミュニティの維持とこの問題は別問題である。

一番の理想はこう思っている。

13インチくらいのタブレットを2万5,000個買って、それをテレビに繋げられるようにして、タブレットに触れば広報も回覧板も見ることができて、防災の情報もその中で見る事ができる。

そうすれば、いざとなってもそれを持っていればどうにかなる。

そんなタブレットを配って、「紙で欲しい人にはどうぞ支所に置いておきます」という形にしておけば何の問題があるのかと思っている。

ボタンを押すだけである。

スマホみたいに色々な機能を使ったり電話に出たりということではできないかもしれないが、13~4インチの画面に全部ボタンを用意しておけば、高齢者がなぜできないという話になるのかという思いである。

これは規制概念だけであって絶対にできることである。

それから、若者が東京に行くことも、若い女性が東京へ行くことも1つ概念があって、田舎では「あそこの子はまだ結婚しないのか」とか、「いつになったら結婚するのか」とよく言われる。

そういう干渉だと思う。

コミュニティというのは若者への干渉である。

集落の集まりに出なければならぬとか、田舎にはそういう干渉がある。

だからそれを女性が全部振り切るには東京へ行くのが一番早いのである。

1人で自由になれるということは、実は大きな問題である。

ここでいう地方における何と言うのか、監視されている感というのは分かる。

監視ではないが、昔はそれが普通のコミュニティだった。

でも、今はそのコミュニティがなかなか通じない世界である。

だから、デジタル化も結構似通っている世界だと思っていて、そこに踏み込むまでに厚い見えない壁があるような気がする。

だから私は「ドラえもん」を置いとけと指示をしている。

これは人間の仕事をAIが取るか、AIが便利になるか紙一重だと思うが、ドラえもんを置いて、顔認証とマイナンバーで全部認証して、そしてドラえもんが「本日はどのようなご用件ですか」と聞いたら、「住民票」と答える。

そうしたらお腹のポケットから住民票が出てくるくらいの、そういうものを作れたら面白いのではないか。

そういうことだと思う。

そうすれば市役所の窓口だって、24時間365日住民票が取得できるようになる。

ある意味簡単な、きっと今でもやる気になればすぐにできるはずである。

そこを阻害しているのが今の既成概念だと思うので、これを突破して、人口減少社会におけるシステムをどう作っていくのかというところは考えていきたいなと思っている。

自然の話も本当に素晴らしいが、実は自然を管理するのは自然ではなくて私は人だと思っている。

なので、自然を管理する産業であるとか、そういうものがしっかりしないと、森林も海も維持できないと思っている。

だから先ほど言ったように、ネイチャーポジティブも含めて産業をどうしていこうかと。

そこに働く若い人をどうしていこうかということになっていく訳である。

その若い人たちが効果的に働いて、地方でもきちっと収入を得るためには効率的にしなければならぬ。

そういう部分でAIも含めて新しい産業ビジネスモデルをどう作っていくのかというところが、これから10年20年で目指すべきところだと思っている。

本日のお話の中でも、やはり全体像でどういう繋がりを作っていくのかというところをもう少し考えていきたいと思う。

もうとにかくデジタル化と産業である。

地域を残す。

そうしないと自然も残らない。

座長、副座長、是非お力添えをいただきたい。

それを仮称のNPO法人が作る訳である。

よろしく願います。

是非、ドラえもんを作りたい。

窓口には1つ作ろうと、デジタル政策主幹にずっと言っている。

本人は苦笑いされているが、私の頭の中では絶対できるはずだと思っている。

将来、本当に面白いと思う。

恐らく、介護だってロボットがするようになるのは間違いない。

海外では戦闘型に特化したロボットも開発しているくらいなので、戦争だって今はドローンである。

もう3年前、5年前には考えられないことが起きている。

1機何百万円、何千万円する機械じゃなくても、1機何十万円のドローンが大活躍である。

肥料もドローンで撒いてしまえばいいと思う。

これを農家がやれば所得にもなるし、コストも下げられる。

だからもう本当にデジタルはやり方一つである。

副座長  
渡辺市長

<p>椎室長 渡辺市長</p>	<p>それでは、時間である。 1度ゆっくりとまた色々とお話し合いをさせていただければと思う。 本日はご提言いただき感謝申し上げます。</p> <p>2) 令和8年度事業概要について (椎室長より説明)</p> <p>3) その他 (新年度の組織等について、椎室長より説明)</p> <p>4 副座長あいさつ</p> <p>5 閉会</p>
---------------------	---